

社会資本総合整備計画(都市再生整備計画)
フォローアップ報告書

長府駅周辺地区

平成27年4月

山口県下関市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4- 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	南北連携時間	分	10	3	3	確定 見込み		あり なし		H 年 月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	JR長府駅自由通路及び周辺道路の整備により、安全性、快適性の向上を図ることができた。これらの利便性、安全性、快適性の向上により南北間の地域交流の活性化が図られた。
指標2	交通環境満足度	%	10	50以上	79.8	確定 見込み		あり なし		H 年 月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	JR長府駅自由通路及び周辺道路の整備により、アクセス性の向上を図ることができた。これらのアクセス性の向上、安全性の確保、円滑に移動できる歩行経路の確保により、地域住民や駅利用者の交通環境を向上させた。
指標3	公園利用者数	人/年	20,000	22,500	20,563	確定 見込み		あり なし		H 年 月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	グラウンド、遊戯広場等の整備により快適に利用できる公園施設の提供を行った結果、公園の利用促進を図ることができた。
指標4	浸水家屋数	戸	4	0	計測不能	確定 見込み		あり なし	0	H27年3月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	施工時期の調整により、計画期間内で浸水対策事業の実施が困難になったことから、平成24年度以降の別パッケージの社会資本総合整備計画の事業へ移行させ浸水区域の解消を行った。
指標5						確定 見込み		あり なし		H 年 月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4- その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	まちづくり活動・会合等(ワークショップ)の開催回数	回	0	/	3	確定 見込み	/	/	/	H 年 月	/	改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	道路設計におけるワークショップの開催と地元自治会での事業説明会や回覧を実施し、多数の住民の参加と理解を得ることにより、道路づくりを中心とするまちづくりへの関心の高まりを図ることができた。
その他の数値指標2	道路の歩道バリアフリー化路線延長	m	0	/	705	確定 見込み	/	/	/	H 年 月	/	改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	JR長府駅南口の駅前広場や駅に連絡する自歩道(市道)のバリアフリー化を推進し、誰もが円滑に移動できる歩行経路を確保できた。
その他の数値指標3	公園利用件数	件/年	883	/	906	確定 見込み	/	/	/	H 年 月	/	改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	グラウンド、遊戯広場等の整備により快適に利用できる公園施設の提供を行った結果、公園の利用促進を図ることができた。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	安全な交通環境、快適な生活環境の保持、充実	長府地区まちづくり集会	地域住民のまちづくりへの関心が高まった。	地区のまちづくり協議会の立上げも検討されており、今後も地域住民によるまちづくりの支援を行う。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	狭小踏切道の改善	地区東部の市道長府才川町11号線(長浜上第1踏切)において、道路事業により踏切内の市道拡幅工事を実施した。	小学校児童の通学路等、道路の安全性が向上した。	
	浸水区域の解消	地区東部において、鉄道横断部の水路改修工事を実施した。	浸水区域の解消がされた。	

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

しゃかいしほんそうごうせいび しがいちせいび
社会資本総合整備計画(市街地整備)

やまぐち しものせき
山口県 下関市

都市再生整備計画(精算報告)

ちょうふえきしゅうへん
長府駅周辺地区

やまぐち しものせき
山口県 下関市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山口県	市町村名	下関市	地区名	長府駅周辺地区	面積	155 ha
計画期間	平成	19	年度	～	平成	23	年度
				交付期間	平成	19	年度
					平成	23	年度

目標

- 大目標 歴史と産業の調和を図ったJR長府駅周辺整備等による、子供からお年寄りまでの地域住民及び来訪者が、安全で快適に過ごすことのできるまちづくりを目指す。
- 目標 児童や高齢者、観光客など、誰もが安全に安心して利用できる歩行空間の改善
- 目標 子供達が健やかに、高齢者がいきいきと生活できる生活環境の改善
- 目標 観光拠点としての利便性、快適性、シンボル性を備えた駅前空間の整備

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・下関市は、山口県西端に位置した地形条件から、本州と九州を結び交通の要衝として栄え、明治22年に赤間関市としてスタートした後、明治35年に下関市へ改称、昭和12年の長府町の編入など、複数の編入・合併の後、平成17年2月13日には旧下関市と旧豊浦郡4町の合併を経て、現在は人口290,693人(平成17年国勢調査)、面積715.8km²を擁する山口県下最大の都市として、新しいまちづくりが始められているところである。
- ・観光資源の豊富な下関市にあって、長府地区については、7世紀には長府国の国府が置かれ、江戸時代には毛利秀元が長府藩を設置するなど、その歴史は古く、今なお城下町としての歴史的な街並みが残されており、長府博物館、美術館、長府庭園などの歴史的な文教・観光施設が集中し、下関市の観光の重要拠点となっている。また、周防灘沿岸部は大規模な工場が立地する臨海工業地域を形成している。
- ・長府地区の玄関口となっているJR山陽本線長府駅の周辺には、歴史的観光資源や、長府福祉館などの福祉施設3施設、高等学校等の教育施設5施設、下関競艇場などのレクリエーション施設5施設などの多種多様な施設が立地し、市民の利用に供している。
- ・この地域は、昭和50年代後半より大規模な宅地開発が進められ、地域の人口が増大した。また、それに伴い、長府小学校(54年)と長成中学校(H2年)が新設され、周辺道路は、多くの児童・生徒の通学路となっている。しかし、道路の幅員が狭く、車の離合が困難な場所が多いこの地域では、歩行者や自転車、自動車動線が輻輳し、たいへん危険であるため、動線の分散が必要となってきている。また、古くからの市街地である鉄道南側市街地は、北側市街地からの急峻な地形条件から雨水排水処理に問題が生じている箇所も見られるなど、生活環境上の問題点も多い。また、この地区の交流の場となっている長府運動場は、施設の老朽化に加え、子供からお年寄りまでが利用できる設備が整っていない状況である。
- ・駅及び周辺施設を見ると、バリアフリー化の遅れ、駅札札口が南口のみであることから鉄道北側市街地からの利便性の悪さや南北市街地の分断、駅前の広場内での交通動線の錯綜、観光拠点としての駅舎のシンボル性の欠如など多くの問題を抱えている。
- ・JR山陽本線・長府駅の乗降者数は、平成6年の5,944人をピークに年々減少の傾向にあり、平成16年は4,844人と平成6年の81.5%まで減少しているものの、下関市中心部や北九州方面への通勤・通学の利便性などから、長府地区に隣接する王司地区や清末地区では人口が増加している。
- ・長府駅周辺については、平成8年度から駅周辺整備構想が検討され、平成13年度には地域住民の参画を得た中で整備構想が検討・立案されており、地域住民のまちづくりへの関心の高まりが見られる。

課題

- ・北側市街地から駅へのアクセスは、狭い踏切の横断や歩道が無く幅員の狭い市道を利用している。また、小・中学校の通学路にもなっているため、安全な歩行空間の確保が必要となっている。
- ・南側市街地の駅前の広場及び前面道路には歩道がないため、自動車・歩行者・自転車の動線が輻輳しており、また取付道路である一般県道長府停車場線と駅前広場入口が食い違い交差となっていることから、安全性について大きな課題を有している。そのため、長府地区の小・中学校の通学路となっている市道印内・オ川線において、児童・生徒の安全確保のため、交通規制を平成16年10月1日から実施している。
- ・地域の将来を担う子供達やお年寄りが安全に利用できる公園設備の不足、鉄道線路背後地の急峻な地形条件から生じる雨水排水の問題などもあり、良好な住環境の改善が望まれている。
- ・長府駅及び南口駅前広場は、下関市城下町長府の観光拠点の玄関口として地域内外の利用者が集う場所であるが、施設のバリアフリー化の遅れ、拠点性やシンボル性に欠ける空間となっており、観光拠点として相応しい魅力ある駅前空間づくりを進める必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・「第四次下関市総合計画」においては、歴史との出会いの中から郷土を知り、郷土を誇る市民の心を養う風格のある伝統的空間を演出する「歴史の拠点」として位置付けられている。
- ・「下関市都市計画マスタープラン」においては、「駅前地区の整備と周辺の活性化を進め、歴史的特性に配慮した市街地の形成」を土地利用の方針として定められている。
- ・「下関市交通バリアフリー基本構想」においては、駅舎改築などの整備計画の進捗状況に応じて重点整備地区に指定する「整備予定地区」に位置付けられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
南北連携時間	分	道路、自由通路整備による南北移動時間の短縮	・移動時間H18年10分をH23年3分に短縮	10分	H18	3分	H23
交通環境満足度	%	計画区域での満足度(アンケートによる)	・駅周辺整備による利便性の向上、魅力、個性等の向上及び歩行空間改善に対して利用者及び地域住民の半数以上が満足することを目指す。	10%	H18	50%以上	H23
公園利用者数	人/年	長府運動場の年間利用者数	・子供からお年寄りまでが幅広く利用できるグラウンドとして整備することで、公園利用が促進されると捉えて設定する。年間利用者数の増加を目指す。	20,000人	H18	22,500人	H23
浸水家屋数	戸	浸水家屋の減少	・浸水対策事業による生活環境の改善として、浸水家屋を0戸にする。	4戸	H16	0戸	H23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>安全な歩行空間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の市道拡幅や自転車歩行者道の整備を行うとともに、それに接する県道の美装化を行い、地域住民の利便性・安全性を確保する。 ・南北市街地からの利便性向上、連携強化及び駅周辺のバリアフリー化を図るため、南北駅前の整備、公衆トイレ及び自由通路とエレベーターの設置を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道印内才川線整備(駅南口、基幹事業:道路) ・市道長府松小田北町1号線(駅北口、基幹事業:道路) ・市道長府松小田北町15号線(駅北口、基幹事業:道路) ・市道長府松小田中町1号線拡幅(基幹事業:道路) ・長府松小田北町自歩道2号線整備(基幹事業:道路) ・公衆トイレ新設(基幹事業:高質空間形成施設) ・自由通路(基幹事業:高次都市施設) ・交通施設バリアフリー化施設整備事業(駅構内EV、関連事業)
<p>快適な生活環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供からお年寄りまでが幅広く利用できるグラウンドとして長府運動場の整備を行うとともに、通学時の子供達や高齢者の安全な通行を確保するため、踏切内の歩車道の拡幅及び鉄道南側に歩行者専用道路の整備を行う。 ・浸水地域を解消するため水路の改修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園施設整備(長府運動場、提案事業:地域創造支援事業) ・市道長府松小田本町自歩道1号線整備(基幹事業:道路) ・市道長府松小田本町5号線(基幹事業:道路) ・市道長府才川町11号線(基幹:道路) ・ポケットパーク(基幹事業:地域生活基盤施設) ・浸水対策事業(提案事業:地域創造支援事業) ・長府古城団地公営住宅建設事業(関連事業)
<p>シンボル性及び交通結節点の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅南口・北口の広場及びこれらを連絡する自由通路の整備や、駅前南口への公衆トイレ、モニュメントの設置を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレ新設(基幹事業:高質空間形成施設) ・案内板(基幹事業:地域生活基盤施設(広場)) ・駅前美装化(基幹事業:高質空間形成施設(ファニチャー等)) ・歩行者支援施設(基幹事業:高質空間形成施設(歩道用シェルター)) ・自由通路(基幹事業:高次都市施設)
<p>その他</p> <p>事業終了後の継続的なまちづくり活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通利便性の向上や生活環境の改善を地域住民及び城下町長府地区の来訪者へ、幅広くPRを行う。 ・長府地区整備推進協議会を活用して、地元の自治会連合会等と連携しながら、住民主体のまちづくり活動を実施していく予定である。 <p>交付期間中の計画の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交付期間中において各事業の円滑な執行管理やまちづくりの目標達成に向けて確実な効果を高めるために、モニタリングの実施を行い、問題の処理、計画の修正・調整・改善を行っていく予定である。 	

